

いしずえ

# 青年部通信 礎 No.11



- 青年部全体会に参加して
- 特集
  - ・全国青年保育者会議 青森大会に参加して
  - ・全国私立保育園研究大会 横浜大会に参加して
- ぬきうち保育園訪問
  - ・境いずみ保育園……猿島郡境町西泉田 704-2
  - ・みくに保育園 ……結城市結城 3073

## 青年部全体会に参加して

ひまわり保育園 園長 小橋 達也

青年部全体会が7月17日(土)、18(日)の二日間にわたりひたちなか市で開催さ

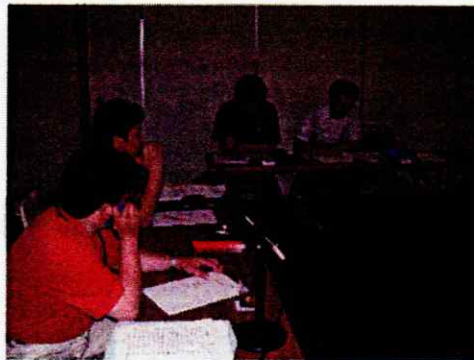


れた。第一部は親睦会としてボーリングを楽しんだ。ストライクが出たときの大喜びする様子やガーターになった時の悔しがる姿から、今回初めて参加した部員も雰囲気になじんで違和感なくとけ込んでいるように見えた。これもスポーツの持つ効果と事務局の設定の巧みさだと感心させられた。

第二部は阿字ヶ浦クラブに場所を

移して日保青年保育者会議報告、総合施設の進展状況の報告、「朝まで経営相談」と進められた。保育者会議の様子については当日も参加した塙信晋氏(日保青年部情報委員)の記事に譲り総合施設についての報告を記述してみると、…総合施設は施設基準・利用方法・費用負担・職員の資格など根本部分での具体的内容が示されないで現時点では何とも言えないが、17年度に先行試行、その後18年度からの実施という期限が切られているので注意深く見守っていく必要があるとのことだった。小泉内閣の「骨太の方針」で第3の乳幼児の受入施設として位置づけることは決定しており、社会福祉法人にとってメリットがあれば進出する必要もあるだろうとの話だった。総合施設は待機児童の多い都市部や、少子化が進み施設統合が迫られている地方になじみやすい施設であり、状況によってはわれわれ保育園からの転身も視野に入れるべきだという意見も出された。また、政策が具体化する過程で幼稚園寄りの施設にならないよう、保育園サイドから声を大きくして政府・厚労省へ働きかけていくことが必要であるとのことだった。そして何よりも重要なことは我々保育に携わるものが、それぞれの地域の要望を取り入れた事業を継続し地域のなかでその存在を認められていくことだとの結論となった。

その後夕食を摂り、部屋に戻ってそれぞれの保育に対する思いを語ったり、自園の問題を相談したり、それらに対して意見を述べたりする「朝まで経営相談」に移った。ここでは渡辺部長、川崎相談役が最終的な「まとめ役」となって進められた。…ある年には多数の保育士が退職したため養成校にお願いに回ってやっと必要な人員を確保したという話、園児を失いたくないという意識から、保護者に対して子どものために



ならないことを注意できないというジレンマ、現在のいつカットされるか分からない補助金に頼った経営でなく運営費だけで経営できる体制を整えるべきだという話…などおもしろく参考になる話が多々聞いた。その後も午前3時、4時までアルコールも入っていろいろな議論が続いたようだが、私は睡魔に勝てず午前2時ごろには別室で休ませていただいた。

このなかで特に印象に残った言葉があった。それは「子どもにとって保育園の時代は結果を求める時期ではなく、種子(Seed)を蒔く時期である。」という言葉である。現在、保護者からの教育的要求(Needs)は多様であり、我々保育所側にも音楽、英語、パソコン、スイミングなどを提供しているという状況がある。そこには幼稚園に対抗する意識からも指導に力が入りすぎ無理矢理に教え込んでいる場合も見受けられる。子ども達がそれらの活動が嫌いになり、将来伸びてゆく可能性を摘んでしまえば本末転倒である。本来、保育園や幼稚園では楽器に親しむことで音楽に興味を持たせれば良く、また外国人の英語教師に接することで誰とでも気後れすることなく話せるようにすれば充分であり、それらを目的とすれば良いのだと思う。私も今後子ども達に様々な「種子を蒔く保育」を目指していきたいものだと強く思った。



今回の研修会は全体としては参加者が14、5名と少なく寂しい面もあったが、内容としては決して低調と言うわけではなく青年部らしい熱い議論が交わされた。また地元ひたちなか市の園長先生方からはかつおの舟盛り、マンボウの刺身やお酒などの差し入れをいただき改めて青年部に対する期待の大きさを感じた。そして今回の全体会に参加して青年部員相互の交

流を盛んにして結束を強め、保育界全体のレベルアップを果たしていけるよう頑張っていこうという思いを強くした。

## 第26回全国青年保育者会議 青森大会に参加して

日の出保育園 副園長 塙 信晋

青森県青森市のホテル青森にて7月7日から9日までの3日間「保育所の真価と進化」という大会テーマのもと、全国より保育者が青森に集い第26回全国青年保育者会議青森大会が開催された。保育所ができること、すべきことを前向きに考え多くの討議・議論がなされた。

1日目、開会宣言により開会。続いて青森大会実行委員長杉本則之氏より「今保育を困む制度改革や規制緩和、たいへん激しい動きの中にあるが、この大会で活発な意見交換討議をして欲しい」と大会の意義を述べ、続いて主催者である日本保育協会青年部部長日吉照幸氏より「今回の大会テーマ『保育所の真価と進化』今まさに我々民間保育園の将来が非常に懸念されている時ある。そういう激動の中でこそ我々民間保育所が民間保育所としての真価が問われる時ではないか、保育所制度、保育界というものをただ守るだけではなく、時代に合った保育サービスの提供とともに進化していかなければならない。私たちの目の前にある子どもと家庭、その子どもの育ちを守ることが我々に課せられた使命である。私たちが青年保育者として今このときに何ができるのか、何をしなければならないのかを真剣に考え勉強し議論していただきたい」と話された。次に多数の方々からの来賓祝辞があり開会式は終了した。

次に基調講演として「認可保育所の現状と動向」テーマのもと厚生労働省雇用均等児童家庭局保育課保育指導専門官 角田雄三氏が講演され

■ 少子化の状況と次世代育成支援について

■ 保育サービスの現状

■ 総合施設について

について、講演された。

その後、「保育界の正念場をチャンスとできるか」というテーマで厚生労働省雇用均等児童家庭局保育課保育指導専門官 角田雄三氏、社会福祉法人清隆厚生会 野木保育園理事長 坂崎隆浩氏、社会福祉法人穴水福祉会 理事長 日吉輝幸氏により

■ 保育界の正念場

■ 地域の中の保育所

■ 総合施設について

上記のことを中心に鼎談がなされた。



二日目は、パネリストに、函館医療保育専門学校 校長 水落 敏博氏 秋田県千畑町教育委員会 幼児教育課長 泉谷 隆雄氏 社会福祉法人恵泉会 中居林保育園園長 栂沢 幸苗氏を迎えコーディネーターとして社会福祉法人交野ひまわり園 ふじが丘保育園園長 東口房正氏により次世代育成支援に向けて現状の問題点・取り組み、保育所の役割についてパネルディスカッションが行なわれその中では、  
水落氏)



保育士養成の内容が変わってきている、保育士という資格が国家資格になったことで、児童の保育とともに児童の保護者への保育の指導を行うという業務範囲が広がったが、保育士の専門性はまだまだ不足しているという不安が学校側にも生徒側にもある。

栂沢氏)

保育士の質の低下が見られる。生活を教える立場の保育士がその生活をしていない。保育士の専門性が大きくなってきているが、その保育士が生活をしていないので対応できない、「考えられない保育士」が多くなってきている。

午後からは、4分科会に分かれ各テーマに沿って討議され

第1分科会「公的負担・利用者負担を含む財源」、第2分科会「在宅育児支援、地域の互助」第3分科会「幼・保・総合の三元化」、第4分科会「国家資格としての保育士」と、各テーマに沿って

私は、第3分科会に参加したが、やはり総合施設というものの正体（具体的な内容であるとか・財源はどうするのか・利用者の範囲の問題・等々）が見えてこない今現在ではやはり不安のほうが大きい。私たち保育所の立場からすると、総合施設を語るうえでは財源ありきの討論になり、確かに財源問題は総合施設を語る上で切っても切り離せない問題であるが、その施設の内容、どのようなことをするのか、そしてどのようなことをしてあげられるのか、その施設を利用する子どもの育ちや子育て家庭に対する支援が根底にあることを忘れてはならないと感じた。

三日目の記念講演は、ハマコーこと浜田幸一氏を招き『「どうなる日本!？」これからの子育て』をテーマに行われた。講演内容よりも、ステージ上に一度もあがることもなく、座っている参加者の周囲をグルグル回りながらの熱弁にとっても驚いた。しかし、参加者からすると、壇上から話しをただ聞くよりも、話し手が身近に感じられ、私たちも浜田氏と一緒に考え発言できた講演ではなかっただろうか。その中で浜田氏は、「国会議員はもっときちんと国のお金の流れを国民みなさんに分かり易く説明すべきだ」と言い、それは、保育にも同じことが言えるのではないかということだった。そして、我々保育者は、保育園を利用してくださっている家庭だけでなく、国の宝である子ども達を育てる役目を担った者として重く受け止めるべきであろうと激励していただき、三日間の青森大会を無事に閉会した。

## 「第47回全国私立保育園研究大会横浜大会に参加して」

総和町 こばと保育園 主任保育士 本多奈津子

第47回全国私立保育園研究大会が横浜の地で開催されました。「生まれてくる子ども達のために何を語ろう」というテーマのもと、全国から集まって来た仲間と共に意義深い3日間を過ごしました。

私は、初めて分科会の座長という大役をまかせられ、緊張と、不安を背負い横浜大会に臨みました。会場に集まって来た一人一人の笑顔と輝



いた瞳、そして自信に満ちた澆刺とした姿を拝見し、保育者として学ぼう、学び合いたいという切なる気持ちがひしひしと伝わってきました。おぼつかない私ではありましたが、座長としての大役をしっかりと務めなければという責任感が背筋をピシッと伸ばしてくれました。

2日目の午前の第5分科会は、「4～5歳児の保育、仲間と共に育つ」というテーマで、3人の発表者がそれぞれの保育園で研究してきた事をパソコン、ビデオ、写真等を通して発表されました。様々なクラス実態の中で、託された子ども達の為に何が出来るのか日々奮闘し、悩みながらも子ども達に主体性を持たせ、一緒に作り上げたり、友だちの輪が深まり遊びの輪が広がってきた時、保育者としての感動と喜びを満喫している様子が伝わってきました。私は座



長として、掲げられた討議の柱から逸れないよう、短い打ち合わせ時間で提案者と、助言者の先生方と共に論議し、午後の分科会に臨みました。午前の発表に対しての質疑、討議の時間の中で、クラス全体で何かを作り上げようとする時、どうしても自己主張の強い子が一人いると、「あ～、この子がいるせいで…」とと思ってしまったり、子ども

達同士「〇〇くんが一緒じゃやりたくない。」という感情をもってしまう、そんな時はどのように子ども達とかかわり合っていたらいいのか？という質問が多く出されました。参集者、提案者、助言者の先生方から、実践を通して体験した様々なアイデア、良きアドバイスをいただき、新たなる力を与えられた方々が多くいた事と思います。助言者の先生方からの「子ども達は五感を通して働きかけてくる。子ども達を何とかしようとする保育者の気持ちは、子ども達の自己表現をなくしてしまう。」という言葉が、私達保育者一人一人が保育の

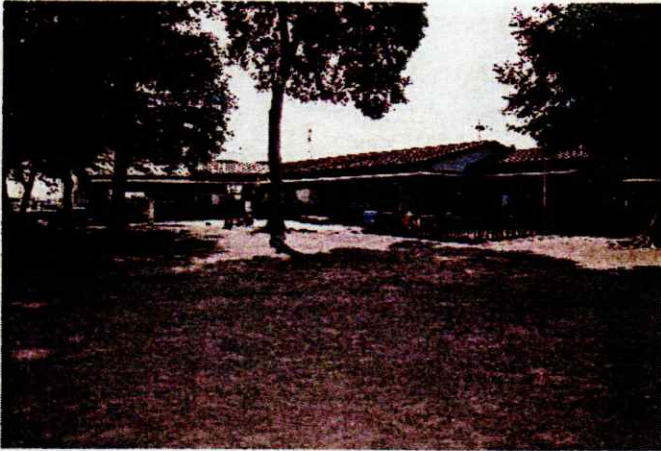
原点に立ち返るきっかけを与えてくれました。子ども達が保育者を必要とし求めて来た時、心の引き出しの中から、必要としているもの……愛、強さ、厳しさなどをその時々に応じて与えてあげられたらと思います。私はこの大会に参加して、あらためて、未来を担う子ども達の為の保育の責任を痛感しました。そして、子ども達の未来



が横浜の海のようにキラキラと輝き満ちて欲しいと願います。最後に、座長として至らぬ面が多々ありましたが、無事務め終える事ができ、御協力いただいた方々に深く感謝いたしております。

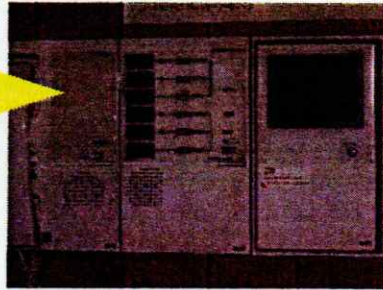


# めきうち保育園訪問 in 境いずみ保育園



園庭にたつ優しそうな菊池園長先生です。

大きな木が印象的広い園庭です。子ども達ものびのび遊べます。



来客者を門内のカメラで確認し、遠隔操作で門の開錠を行うことにより、不審者等から子ども達を守っています。

感染症予防のため、オゾン殺菌脱臭機で、保育室の殺菌・脱臭・除菌を行っています。





# めきうち保育園訪問 in みくに保育園



6月より3才以上の園児が下駄を着用し、足の発育と脳の発達を促しています。



なぜかバナナを持った副園長です。正門にはお釈迦様の誕生仏が子ども達をお迎えします。

結城健田まつりの中日に保育園の子ども達と市内を練り歩くかぐや姫の「ねぶた」です。



園児の情操教育の一環としてにわとりハトを飼育し年長児に世話をさせています。

## 編集後記

去る7月17日、ひたちなか市の「ミナトボール」と「阿字ヶ浦クラブ」で、青年部全体会が開催されました。

日程の都合上「ミナトボール」で親睦会（ボーリング大会）を先に行い、おおいに盛り上がったそのままのテンションで、今度は場所を海岸沿いの民宿「阿字ヶ浦クラブ」へと移動、第2部 本題である研修会に突入となりました。

研修会では、日保・私保の青年部大会報告や、総合施設関連の情報交換等が行なわれ、いつもと違うシュチエーションに本音トークが飛び交っていました。

夕食（懇親会）は、海の民宿らしく魚料理がズラリ。さらに地元の堀川先生や川崎前部長、また高場保育園の清水先生などからもたくさんの酒や肴を差し入れしていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

かくして帰る心配もなく、程よく暑気を払った面々は、残った酒とつまみをひと部屋に持ち込んで集結。もくろみ通りそのまま明け方近くまで保育を熱く語り合いました。

汲めども尽きない泉のように、保育の、経営の、人事の話など、次から次へと本音トークが炸裂し、いつしか時間も4時をまわっていました。それにしてもいまさら思うことに、皆さんタフだしまじめだし そしてなにより熱いですねエ！

すごい・・・ T. O

